



日本赤十字社
NIPPON KOKU SHUJIKU SHI

日赤みやぎ

仙台市、日本赤十字社宮城県支部 発行、平成20年3月号

第282号

http://www.morise.jp/01

Y 001-0014 仙台西青葉区東通町4-17 TEL: 002-271-2252 FAX: 002-275-0006

東日本大震災から2年

～仮設住宅で「赤十字の心と体のほっとケア」継続中～



日本赤十字社の国によるボランティア、やさしい手とぬくもりが溢れる暮らし、溢れは止みません。

赤十字のボランティアと市民の力が結ぶ希望。

震災后から2年経つにつれて、被災者に対する支援活動は、被災者にとってだけでなく、被災地の復興を促すことにもつながります。

宮城県支部は、被災者に対する支援活動を、このように「たご焼き」と「ごごん」をテーマに、これからも継続して行きます。

最大の被害者ももたらした東日本大震災から2年が過ぎようとしています。宮城県支部では赤十字奉仕者やボランティア、宮城県福祉心理士会の協力を得ながら仮設住宅でのこころのケア活動を継続しています。

「赤十字の心と体のほっとケア」と題したこの活動は、専任職員が中心となり、イベントや研修により、仮設住宅に入居されている方々の精神的ストレスの緩和と地域コミュニティの構築を目的としています。

1月26日に多賀城市内の仮設住宅で行った活動では、物心揃うまでの厳しい状況の中、多くの住民の方が参加してくださいました。地域専任職員が作った「たご焼き」と「ごごん」をテーマに、国に花が咲きました。話題には仮設住宅はすき風が人気が高まらぬこと、復興活動の完成を待ちわびていることなどが挙がり、震災から2年近く経つやも不自由な生活をされていることが伺えます。

今後も住民の方々が安心して暮らすことと寄り添い、復興への支えとなるよう活動を続けます。

震災経験を生かし、 災害に備えるために

日本赤十字社では東日本大震災の救護活動を基盤として、さらなる災害対応能力強化を図っています。



震災時の応急処置（津波の被災者）



震災時の避難所運営活動の研修会



避難用エアシェル



救急車

救護員の能力アップのために

災害現場訓練に参加し、実践的練習の能力向上に努めています。管内には15箇所（仙台赤十字病院4箇所、石巻赤十字病院10箇所）の救護班を常に準備しています。また、震災での活動を検証し、自衛隊や自治体などの関係機関との連携を強化しています。

救護資器材や救護物資の配備

迅速にそして継続して救護活動をするために、適切な資器材の整備を進めています。震災時に避難を来たした仮設住宅の受給者、高齢者の厳しい環境にも耐えられる大型フレームテントを配備しました。

仮設住宅一帯に仮設診療所設置を促すと、自動車救急車コンテナと配設用トラック。

知って役立つ技術！タオルケットや毛布を使ったガウン

（災害時救護実践生活支援講習会より）

1

① 救護物資（タオルケットや毛布）を用意し、下半身を包み、紐で止める。

2

② 上半身を毛布やタオルケットで包み口を縛る。

仕上がり

（傷者側）

寒いとき、おたの急病や怪我などで保護することが出来ます。

とっさの時や災害時にいのちを守るために

赤十字講習会を開催しています

災害時などに自分自身や家族がけがや病気をした場合、医師や救急隊などに到着するまで、救命活動や応急処置をする必要があります。赤十字では、「人命のいのちと健康、尊厳を守る」という使命のもと、とっさの時や災害時にいのちを守り、健康で安全な生活をおくるための知識と技術の習得に努めています。講習には「救急法」「水上安全法」「健康生活支援講習」「防災安全法」などがあり、宮城県北部や県内赤十字施設で開催されるほか、地域や職場、学校などの要請に応じて指導員を派遣し開催していますので、お気軽にお問合せください。

事務推進課 TEL:022-271-2253



3月1日開催された水上安全法講習会。救命活動、2人1組の訓練をする上での実践です。

震災の経験が生かした災害医療コーディネーターチームを育成

～災害医療ACT研究所 災害医療コーディネーター研習会（基礎コース）を開催～

2月11日、石巻赤十字病院に事務局を置く「災害医療ACT研究所」が初の取り組みとなる「災害医療コーディネーター研習会（基礎コース）」を開催しました。活動目的のひとつに、平時からの研究・研修・災害医療スペシャリストの育成・普及活動を行っているこの研究所、今回の研修会は、全国の都道府県および地域の災害医療コーディネーターチームを育成することを目的で開催されました。プログラムは「石巻合同救護チーム」を立ち上げ石巻圏の災害救護活動をコーディネートした経験や、震央における災害調整など、東日本大震災における研究所のメンバーの経験が随所に盛り込まれた内容となりました。

開催にあたっては国立病院機構災害医療センター、東北大学、石巻赤十字病院、民間企業をはじめ、さまざまな分野の方々と協力、全国から44名の方が参加しました。災害医療ACT研究所では2月20日・21日にシミュレーションやグループワークなどの実践コースを開催し、あらゆる場面を想定し柔軟に対応できるコーディネーターチームの育成を意図します。

災害医療ACT研究所～東北大学震災対策部災害医療研究センター、研究所や医師らで平成24年3月に設置された組織



災害医療ACT研究所から集った医師、介護、公衆衛生、保健師などの専門家からなる研修会に参加した様子。

災害時の病院機能を再確認！

～仙台赤十字病院、大規模地震災害対応消防訓練～

2月13日、仙台赤十字病院で大規模地震災害対応消防訓練を行いました。

今回の訓練は、東日本大震災以降に改訂した災害対策マニュアルの検証を目的、災害時の病院機能および各自の役割の再確認を目的として行ったものです。

当日は、一部の病棟で避難訓練訓練を行うと同時に、大会議室で机上シミュレーション訓練を開始しました。机上訓練とは、参加者の想像力での決断や、救急搬送の実施など、今以上に初めて訓練を行う部門もあり、災害時の行動を再確認できる訓練となりました。



病棟での訓練の様子



大会議室での机上訓練

看護学生による癒しのひととき

～看護学生クリスマスキャンドルサービス～

12月30日、石巻赤十字看護専門学校の学生奉仕団による「クリスマスキャンドルサービス」を開催しました。入院中の患者さんのひとりで寒い時間を過ごし、ひとりでクリスマス気分を味わっていただくことを目的とし毎年開催しているこのイベント。参加した1、2年生78名は、キャンドルを両手に持ったホール及び各病棟でクリスマスソングを歌い、患者さんへ手づくりのクリスマスカードをプレゼントしました。



患者さんへの歌、キャンドルサービスを通して癒しのひとときを演出

みんながサンタさん「愛という名のプレゼント」

～全国学生クリスマス献血キャンペーン2012～

全国学生献血推進実行委員会が主催の命を預かる訓練、また若年層への献血の啓蒙と協力を促す事を目的として、全国の献血会場で学生クリスマスキャンペーンが実施されました。

県内では、12月1日から12月22日まで、イオン各店で学生たちが通る人に献血の大切さを伝えました。会場に設置したクリスマスツリーには、献血者から贈ったカードが患者さんへの癒しがいっぱい詰められたメッセージが飾り付けられました。



献血会場でのクリスマスツリー

献血者からのメッセージ

「献血・生命・愛・友情・助け合い・感動など」をテーマに

～日本赤十字社第7回「いのちと献血体験コンテスト」受賞発表～

若年層を中心に幅広い年齢層へ参加の募集を行い、「献血」を通して伝えられる「生命」に基盤を肉けていただき、献血活動の意義の理解、啓蒙の機会を創出することを目的とした体験コンテスト。6月13日から10月15日まで全国の小学生や中学生、高校生及び一般の方から募集を行い、数多くの応募がありました。

賞賛では、次の方々の作品が受賞されました。

賞賛賞 赤十字献血センター 群馬県

加藤 悠 中学生 献血 バスが行く

04-97-50-001 群馬県 高崎 市

賞 入賞

賞たるとも ひとつも思いは ひとつないよ (小学校高学年の部) 日持 香由 様
ふと見れば 母の涙が 涙 (高 校 生 の 部) 沢内 麗人 様
献血の 影の縁く 日向ぼと (小 学 生 の 部) 宮本 成友 様

協賛賞

小学校の部 赤十字賞賛群馬県小中学校

中学校の部 賞賛群馬県公立東北小中学校